

【企画もの】

## 文房具のなかの奈良

「文房具」と「奈良」。この二つの単語を聞いたら何を思い浮かべるだろうか。奈良といえば歴史ある地、飛鳥時代、奈良時代と連想すると、古くから使われ続けている墨や筆を思い浮かべるかもしれない。実際、奈良は墨や筆の一大産地でその歴史は長く、「奈良墨」、「奈良筆」と呼ばれている。

しかし、今回スポットを当てたいのは、歴史ある古いイメージの奈良ではない。たとえば、土産物店で並んでいるペンやメモ帳のように、もっと身近な文房具にも奈良を謳っているものがある。とはいえ、現在の奈良のイメージといえば、鹿や大仏の印象が強すぎる。それらを踏まえて奈良を謳う文房具は、どのような点で「奈良」を打ち出しているのだろうか。本稿では奈良にこだわっている文房具を三品取り上げ、それらを概観・批評しその中から見えてくる「奈良性」を検討する。

なお、本題に入る前に、なぜ私が「文房具」と「奈良」を掛け合わせようと思ったのか記しておこう。大学に入学すると同時に奈良に移り住んで二年と半年。はじめは日本史の教科書に出てくるようなイメージを奈良に抱いていた。しかし、住んでみて奈良の魅力は古都のイメージだけではないことに気づいた。「文房具」という大きなテーマが与えられたとき、ここにも新しい奈良の魅力が発見できるのではないかと思い、「文房具」と「奈良」を掛け合わせてみた次第である。 (以下写真はすべて筆者撮影)

### エントリーNo.1 鹿といちごのレターセット

奈良といえば鹿、これは誰でも思い浮かぶイメージではないだろうか。このレターセットで注目したいのは鹿はもちろんだが、「いちご」である。「あすカルビー」や「古都華」といった品種もあるほど、いちごは奈良の名物である。「いちご」というモチーフは奈良を表現する題材として新しい。

そしてもう一つこのレターセットにはポイントがある。じつはこのレターセット、「ならうふふ文具」のひとつなのだ。「ならうふふ文具」というのは、奈良市内にある文房具店「coto mono」<https://coto-mono.wixsite.com/cotomono> オリジナルの、奈良を楽しむ、持っていると思わず「うふふ」と笑ってしまうような文具たちのことで、デザインは coto mono の



オーナーによるという。

奈良のひとが奈良を楽しめるようにデザインした奈良モチーフの文具、このレターセットには奈良が詰まっている。

## エントリーNo.2 小鹿企画燐寸箱帖

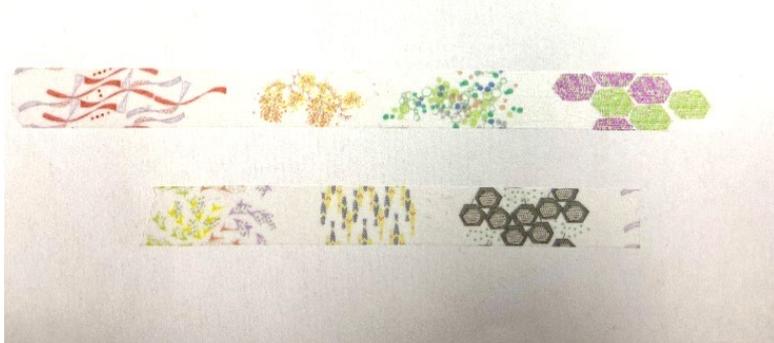


まず、商品名に含まれている「小鹿企画」から説明しよう。小鹿企画とは、奈良を拠点に活動しているクリエイターが出会い、新しい奈良を伝える企画だ。これは、マッチ箱のような小さなメモ帳で、小鹿企画に参加している「いろいろ」のデザインだ。

では、このメモ帳が伝えている奈良を見ていこう。ふんわりとした色味のかわいらしい鳥が描かれているが、よく見ると「ハナクイドリ」と書かれている。「花喰鳥」、かつて奈良で聖武

天皇の遺品とされる正倉院宝物にしばしばみられる文様である。正倉院文様といえば、古都奈良のイメージだが、このメモ帳はそのモチーフをキャッチーに昇華して、思わず手に取ってしまいたくなるようなかわいらしさを表現している。また、奈良の老舗文具メーカー日本製墨書遊 <https://shoyu-net.jp/> に製造が委託されており、まさに made in Nara の商品なのだ。

## エントリーNo.3 いろいろのモチーフマスキングテープ



前述のいろいろが出している商品だ。「小鹿企画」に参加しているクリエイターの商品なので、「奈良性」が見られるかもしれない。

淡くやさしい色彩が使用されている。シンプルな形

の組み合わせが柄になっていて、何の模様かと聞かれても、名前を付けたいが生活になじみそうだ。色も模様も至って現代的だが、どこことなく「和」の雰囲気を感じる。たとえば浴衣の柄にぴったりなのではないだろうか。

\*

墨や筆といった古くから使用されている文房具だけでなく、より身近な文房具にも「奈良」が見られるのではないだろうか……。そう考えて調べ始めた当初は、現代的な文房具

の奈良っぽさといっても、鹿や大仏モチーフのものばかりなのではないかと懸念していた。たしかに予想どおり鹿・大仏モチーフの文房具は売り場に多かった。しかしそれだけではなく、古くから伝わるものが現代的にアレンジされ生活になじみやすくなっていたり、奈良にこだわって商品を発信していきたいと思っているクリエイターがいたりするということが新たな発見だった。

でもさらに、もっとやんちゃに斬新に、鹿や正倉院などと全く関係のない奈良的なものは作れないだろうか。たとえば吉野杉に目を付け、木製の筆箱やボールペンにするなんていうのはどうだろう、、と考えたが、すでにあるようだ（末尾の「参考ウェブサイト」参照）。ならば、最近全国的にも注目を集めているかき氷を奈良の新たなモチーフとして文具化し発信するという切り口だってありうるかもしれない。

いづれにしても、文房具だけでなく、奈良という都市のイメージそのものも新しい「奈良性」を獲得して、かつての古都というだけでなく新たな魅力が全国に広がっていくことが、その魅力を感じている者としては理想だ。

【参考資料・ウェブサイト】（本文中で示したものの以外）

・ coto mono：ならうふふ文具

<https://coto-mono.wixsite.com/cotomono/blank-3>

・ 小鹿企画リーフレット（筆者所蔵）／同企画の下記ツイッター投稿からも閲覧可

[https://twitter.com/coto\\_mono/status/1214828572277260288](https://twitter.com/coto_mono/status/1214828572277260288)

・ 吉野杉のペンケース：<https://kitosumu.com/item/9852>

・ 「吉野杉のペンを開発 - 夢咲花と県森林技術センターが連携」（奈良新聞、2012.06.28 付）

<https://www.nara-np.co.jp/news/20120628091605.html>

木製ボールペン等の土産物を開発・販売開始

<http://www.pref.nara.jp/item/84585.htm>（奈良県ウェブサイト）

販売例：[https://www.miihin.jp/SHOP/cob-2001.html?origin=&ptid=&productid=cob-](https://www.miihin.jp/SHOP/cob-2001.html?origin=&ptid=&productid=cob-2001&gclid=Cj0KCQjw6575BRCQARIsAMp-ksOi_9QtE_p4qD0WLaFpUf1xcjD_GFodhVYRM85n4GiaklbhFXpL_IYaAtTqEALw_wcB)

[2001&gclid=Cj0KCQjw6575BRCQARIsAMp-](https://www.miihin.jp/SHOP/cob-2001.html?origin=&ptid=&productid=cob-2001&gclid=Cj0KCQjw6575BRCQARIsAMp-ksOi_9QtE_p4qD0WLaFpUf1xcjD_GFodhVYRM85n4GiaklbhFXpL_IYaAtTqEALw_wcB)

[ksOi\\_9QtE\\_p4qD0WLaFpUf1xcjD\\_GFodhVYRM85n4GiaklbhFXpL\\_IYaAtTqEALw\\_wcB](https://www.miihin.jp/SHOP/cob-2001.html?origin=&ptid=&productid=cob-2001&gclid=Cj0KCQjw6575BRCQARIsAMp-ksOi_9QtE_p4qD0WLaFpUf1xcjD_GFodhVYRM85n4GiaklbhFXpL_IYaAtTqEALw_wcB)

（本稿は無記名原稿）

## ■ 本稿書誌情報 ■

---

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020 年度「文化社会学演習」WEB 版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

---

2020 年 8 月 1 日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会科学文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail [ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp)